

クロツバメシジミ *Tongeia fischeri* (Eversmann)

【選定理由】

本県では、1970年に旧鳳来町河合で初めて発見されている(鈴木, 1973)。食草ツメレンゲ(ベンケソウ科)に依存して発生している本種は、県北東部の新城市(旧鳳来町)大島川上流、豊根村(旧豊根村、旧富山村)などの限られた地域にしか生息していない。その大島川流域のツメレンゲは、ダム工事に伴い大部分が消失した。その際一部が小学校の石垣に移植され、廃校に伴い民家の石垣へ再移植されている。2008年の現地調査の結果、住民の保護のもとに本種は、細々と生息していることが確認された。

【形態】

前翅長 12mm 程度で尾状突起をもつ小型のシジミチョウである。♂♀ともに翅表は黒褐色、翅裏は淡褐色で小黑点がある。♀は、僅かに翅形の丸みが強い。市街地にも普通に産するツバメシジミによく似るが、翅裏がより暗色で、小黑点の数が多く、♂でも翅表が黒褐色であることで容易に区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根村(旧豊根村、旧富山村)、東栄町、新城市(旧鳳来町)に記録がある。

【国内の分布】

大きく分けると、関東・中部地方の分布域、近畿地方から山口県の瀬戸内海側と四国・九州内陸部の分布域、対馬を含む九州地方の分布域の3つがある。生息地は西日本に多い。

近県では、静岡県北西部、岐阜県高山市に産地がある。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国東北部、中国、ロシア南部、モンゴルからウラルにかけて分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

本種の幼虫の食草ツメレンゲの生育地は、山間地の岩場、露岩地、がれ場、人工の石垣など限られた特異な場所である。

成虫は、年3回(4月末～5月上旬、8月、9月末～10月上旬)発生している。幼虫は葉肉内に潜入、幼虫で越冬する。成虫は、生息地から遠く移動することは少ない。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内では、大島川流域の岩場から知られていたが、ダム工事に伴い大部分が消失した。地元の有志によってツメレンゲごと地元の小学校に移植され、ここで発生を繰り返していたが、この小学校も2002年より廃校となり、民家の石垣へ再移植が試みられ、住民の保護のもとに細々と生息している。

【保全上の留意点】

食草のツメレンゲの自生地の保全が急務である。大島川流域には、生息が可能と思われる環境がまだ残存しており、引き続き詳細な調査が望まれる。本種は、翅裏の色調・斑紋には地域差が知られているため、過度な採集の恐れもある。

【特記事項】、個体数

1999年に旧鳳来町は、食草を移植した小学校の石垣周辺を「七郷一色のクロツバメシジミ生息地」として天然記念物に指定している(横山, 2000)。食草のツメレンゲ自体も本県の準絶滅危惧種にランクされている。

【引用文献】

鈴木友之, 1973. 愛知県で発見されたクロツバメシジミ. 三河の昆虫, (1): 2.

横山良哲, 2000. 鳳来町七郷一色のクロツバメシジミ生息地・町文化財(天然記念物)に指定. 鳳来寺山自然科学博物館報 29号: 35-36. 鳳来寺山自然科学博物館, 鳳来町.

【関連文献】

白水 隆, 2006. クロツバメシジミ. 日本産蝶類標準図鑑: 146-147. 学習研究社, 東京.

巢瀬 司ほか, 2003. 22. 愛知県. 日本産蝶類の衰亡と保護第5集. 日本産蝶類別種レッドデータ・リスト(2002年): 82-87. 日本鱗翅学会, 東京.

横山良哲, 2008. ほのか、ふるさとの心を結ぶ小さな蝶々. 広報しんしろ: 35. 新城市.

(2009年版を一部修正)

県内分布図

